

すはまさうノ花梗ノ長短

レタ安井喜太郎氏ニ其所在ノ調査ヲ依頼シ置キタル處昨冬同氏ヨリ標本ヲ送ラレタ其ノ名箋ニヨルト丹後國網野海濱トアル即チ同地方ニハ確實ニ産スルコト判明セリ

マタ余ハ大正十五年夏朝比奈博士及ビ諸方正資氏等ト伯州松崎海岸旅行中緒方君先ヅ一本ヲ見出し次デ各處ニ其多量ニ産スルヲ確メタリ多クハ海岸防風林(主トシテくろまつ)ノ砂中ニ産スマタ岩石上ナドニ生ズルヲ認メタリ

花期ハ八月中、下旬ニシテ恐ラク山陰地方日本海ニ面スル海岸線ニハ各地ニ産スルモノナラント思ハル、全株白毛ニ蔽ハレ濃紫色ノ總狀花ヲ開クモノニテ蓋シ Veronica 中ノ美シキ一種ト言フヲ得ベシ當時緒方氏採集ノモノハ今尙東京戸塚ノ同氏宅ニ繁茂シ園内實生出現シ栽培ノ極メテ容易ナルヲ示セリ、寫眞ハ緒方氏宅ニ於テ朝比奈博士ノ撮影スル所ナリ

○すはまさうノ花梗ノ長短

久 内 清 孝

人ノ頭ハ世ノ進ムニ從ヒ緻密ニナルモノト見エ西洋人ノ中ニハ可ナリ細カナ事實ヲ捕ヘテ色々ナ草木ニ名ヲツケル傾向ガ近來著シクナリツ、アル様ニ思ハレル、ヤレ *forma* ダトカ *subforma* ダトカツマリ二名法以下三名法、四名法、五名法ト云フ様ニ細カナ命名ガ行ハレツ、アル、コレ等ハ場合ニヨツテハ彷徨變異ノ様ナモノニマデ命名サレテ居ル様ニモ思ハレ、彷徨變異ガ遺傳シナイモノトスレバ、ツマリ不安定ナモノニマデ命名サレルコトニナリ二名法ノ開祖リンネ先生ノ意思ガ段々没却サレツ、アル様ニモ思ハレル、其是非ハ別個ノ問題トシタゞ斯クノ如ク命名サレルモノニ就テ見ルト其レハ勿論一々其程度ニ於テ一見區別出來ルノデアアル、今余ノ言ハントスル所ノ如キモカ、ル近代の意味カラ言フノデアアル

すはせらう (*Hepatica triloba* CHAIR. = *Anemone Hepatica* L.) ノ花ニハ梗ガ無ク若シアッテモ極メテ短イノガ普通デアルカラ一見シテ花ハ總苞片ニ直接シテ居テコノ總苞片ハ宛カモ萼ノ様ニ見エルノガ常デア、サレバ牧野先生ノ『普通植物檢索表』ニハ「全邊ノ總苞ト接近ス」トシテコノ狀ヲ表現シテ居ル

多クノ野生ノ狀態ヲ見ルト何レモ如上ノ場合ニ相當スル、然ルニ余ノ栽培スルモノ、中ノ一株ハ約一「セ、メ」、程ノ花梗ヲ有シテ居ルノガアル從ツテ花ハ其柄ノ爲メ總苞片ヨリ明瞭ニ抽出シテ居ルノデアルガコンナ場合ヲ見テ直ニ心ニ浮ブコトハすはせらうニハ恐ラク此總苞片ヲ基準トシテ三個ノ花ガ出ル様ナコトガアルノデハナイカト云フコトデア、ツマリにりんさうトカはんりんさうトカはんいちげトカノ様ナ咲キ方ヲスルノモアルノデハナイカト推測サレルノデアル、マタ右ノ長梗ノモノ、如キハヤ、長キ梗ヲ有スル、ツマリ有梗ノ一形デアルト考ヘ得ルノデアル、ヨク梗ノ長短ガ分類上考慮サレル様デア、ルガソナ先例ニヨレバコレモ何ントカ云フ subforma 位ニハナリ得ルノカモ知レナイ

○ 薔 類 雜 記 (五)

迷薔愚奴 笹岡久彦

○ たううちごけノ分布遂ニ九州ニ及ブ

頃日陸前仙臺育英中學校野口彰君カラ送ラレタ標品中ニたううちごけ (*Endotrichella elegans* FLEISCH.) ヲ發見シタコトハ特報ニ値スルト思フ、即チ該君ノ郷里附近宮崎縣北諸縣郡三股村ガ其產地デ昭和二年八月一日ノ採集ニ係ル、曩ニ緒方正資君ガ本誌第四卷第二號四十九頁デ發表サレタ如ク本種ハ熱帶ノ普通種デ既知ノ臺灣南部カラ一足飛ビニ九州南部ニ見出サレタノハ誠ニ面白イ分布ト謂フベキデア、ル從テ此間ニ介在スル臺灣北部琉球等ニモ發見サル、可能性ハ充分デア、ルト信ズル